

日本英学史学会 中国・四国支部

ニューズレター

No.99

Historical Society of English Studies in Japan, Chugoku-Shikoku Chapter

<エッセイ>

ニューズレターNo. 100 を目前にして

一年頭のご挨拶

竹中 龍 範

皆さまには清々しい新年をお迎えのことと存じます。昨年来、新型コロナウイルスの感染拡大が続いていて、今年度の支部総会はメール審議に付託となり、第1回研究例会は中止、第2回研究例会はZoomによるオンライン例会となって、皆さまに直接お会いすることが叶いませんでしたが、その一刻も早い収束を祈りつつ、可能な形を探りながら支部活動を展開いたしたく願っております。一層のご支援とご協力をお願い申し上げる次第です。

明るく令和3年度の事業とはなりますが、本『日本英学史学会中国・四国支部 ニューズレター』が100号を迎えますので、役員会に諮ったうえ、これを記念してなにか特集が組めればと希望しております。いま『英学史論叢』第10号に掲載された事務局編「日本英学史学会広島支部及び中国・四国支部 年表稿」を見ると、平成2年(1990)の記録に「2月2日 広島支部『ニューズレター』第1号を発行。」と記されております。この年表稿は、事務局編とはなっておりますが、実質的には松村幹男先生がおまとめくださったもので、支部活動の歴史をたどるうえで貴重な情報源となっております。ただ、残念ながら、支部ニューズレターについては、その発行の記録を完全に追跡することはできません。タイトルが「ニューズレター」「広英史報」「ニューズレター」と変遷を遂げるのは良しとして、特に前2者の間に号数の食い違いが見られるところが残されているという問題もあります。これを解決するためには、全号そろいの形で保存されているものを見るしかありませんが、古くからの会員の方々がすでに鬼籍に入られ、あるいは、ご退会になられという状況下に、困難な作業となることが想像されます。

かく言う私のほうは、在職中には自宅と研究室とをまたぐ形でこれをファイルし、さらには、研究室の耐震・耐火工事のための引っ越しがあり、加えて、退職に伴う個人図書や資料類の引き上げによる混乱のために、そのファイルを必要な形で取り出すことができないという状態にあります。歴史研究の分野に身を置きながら、自らの関わる場所についてその歴史が記せないなど、慚愧の至りと言うべきですが、そのゆえに、『ニューズレター』100号発行までに今しばらくの猶予がある現時点において、会員の皆さまにご協力をお願いいたしておく次第です。

どのような形の特集を組むかは、これから役員会にて詰めていただくこととしますが、それが決定され次第、皆さまに呼びかけを行いますので、積極的なご支援・ご協力を下さるよう、お願いを申し上げます。この100号発行の時にはすでにコロナ禍が収束していることを願うところですが、たとえそれが叶わぬこととしても、その状況下にこの記念号に向けての活動は動き出していたのだとの評価が得られれば、それは以て誇りとするところとなるでしょう。

(日本英学史学会中国・四国支部長)

令和2年度 第2回 (通算82回) 研究例会 (オンライン例会) 報告

本年度第2回 (通算第82回) 研究例会を、12月12日 (土)、オンラインにて開催しました。テレビ会議システム Zoom を用いた初のオンライン例会では、2件の研究発表が行われ、18名の方々にご参加いただきました (うち会員16名)。多数のご参加まことにありがとうございました。

日時： 2020年12月12日 (土) 13:30 オンライン受付開始
方法： オンライン会議システム Zoom による開催
参加費： 会員、非会員とも無料

開会行事 (14:00~14:10) 支部長挨拶 竹中 龍範 (元 香川大学)

研究発表(1) (14:10~15:20)

菊池武信と佐藤喜峰について

安部 規子 (久留米工業高等専門学校)

本発表では、日本人のための英語発音の手引書である『英語発音秘訣』(1886)の著者菊池武信と『天路歷程』の邦訳に関わった佐藤喜峰に焦点を当てる。菊池は英学者というより基督教信仰に人生を捧げた人物であったが、受洗を始めとして不明な点も多かった。同郷の佐藤喜峰も上京し、基督教を信仰した。佐藤と菊池、さらに築地の宣教師ヤングマンとの関係や社会活動について、佐藤の子孫森晴彦氏の資料も紹介しながら、新たに明らかになったことを報告したい。

研究発表(2) (15:40~16:50)

Basic English と広島英語教育

馬本 勉 (県立広島大学)

1930年に発表された Basic English は早くから日本に紹介され、様々な訳書、解説書、論考などが出版されてきた。これらの執筆者の中には、広島にゆかりのある人物が少なくない。本発表では、1930年代を中心とする文献調査をもとに、広島ゆかりの人物が Basic English にどう関わり、それをどう評価していたかを探ることを通じて、日本における Basic English 普及史の一端を明らかにしたい。

閉会行事 (16:50~17:00) 副支部長挨拶 松岡 博信 (安田女子大学)

忘年懇親会 (17:30~19:00) オンラインで開催 (参加自由。飲み物や食事は各自準備)

初のオンライン例会終了後、2020年の忘年会を兼ねた懇親会をオンラインで開催しました。7名の参加があり、それぞれの近況報告を中心に、和気あいあいと語り合う楽しいひとときとなりました。ちょうど居酒屋の大き目のテーブルを囲んで語り合う雰囲気でしたが、「リアル」な懇親会とは一味違った、愉快的な会でした。



研究発表①

菊池武信と佐藤喜峰について

安部 規子 (久留米工業高等専門学校)

【発表を終えて】

『英語発音秘訣』(1886年)を執筆した菊池武信(島亘)について、3年ほど前、森晴彦氏から主には菊池の基督教信仰、そして佐藤喜峰や大鳥圭介とその娘たちとのつながりについてご教示いただきました。今回その内容を会員の皆さまにお伝えする機会をいただきました。菊池(島)の足跡は思いがけず多くのところに残っており、今回は信仰や布教に関する内容が中心となりましたが、いつか『英語発音秘訣』がどこでどのように使用されていたのかが明らかになる日が来ると思っております。Zoomでの発表が初めての私のために、馬本先生には事前に接続テストまでしていただきありがとうございました。また、発表資料を事前又は事後に参加者の皆さまにお送りしておけば拙い発表内容をより理解いただけたのではないかと反省しております。

【参加者の感想】

◆発表題目からは菊池武信と佐藤喜峰との交流、あるいは交友関係を築地における活動の中を探ろうとするものと予想しておりましたが、むしろ、菊池武信の評伝にかかり未解明な部分3点を明らかにすることを主眼とすることをご発表で、表題と内容との間に少々乖離を覚えました。ただ、この3点の究明については大いに関心を覚え、こういう形により研究発表の場で取り上げることでさらなる調査・分析の方向づけを得られたかと思われ、意義あるご発表であったと思います。『評伝菊池武信』の完成を期待するところです。

<Dragon>

◆菊池武信という人物を把握する場合、『英語発音秘訣』に焦点を当てた英語教育史の視点だけではなく、宗教論なども含めた「英学史」的な視点が必要不可欠であることを痛感させるご発表でした。安部先生のご研究は、ジグソーパズルを1枚1枚貼り合わせていく地道で粘り強いものです。その努力が、菊池関係者からの情報提供を呼び寄せ、田邊祐司先生を交えた菊池研究の知のネットワークを形成しているように思いました。次なるピースをどう発見し、それをどこに貼るか。全体像の解明に向けた息の長い取り組みに、真実の探求それ自体を生業とす

る研究者の一つのモデルを見た思いがしました。
<江利川春雄>

◆菊池武信と佐藤喜峰を中心にヤングマン、杉森此馬等、九州地方における英学史上の人間模様を明らかにされたお話を興味深く拝聴させていただきました。ありがとうございました。 <Rainbow>

◆ある個人に焦点を当てて研究を進めて行くと、必然的にご子孫の方に辿り着くこととなります。そこでの良い関係から研究が進展したと聞き大変うれしく思いました。また、発表に関して多くの先生からさらなるヒントが頂け今後の研究の発展が楽しみです。 <YH>

◆人と人とを結びつけていく安部先生の研究手法はとても参考になります。歴史上の人物間の関係を探ることから、研究対象ゆかりのひとと安部先生が出会い、研究を進める新情報が積み重ねられていく様子に感銘を覚えました。私も何度かそうした出会いがありましたので、こうした研究のアプローチをこれからも大切にしていきたいと思いました。

<Horse>

研究発表②

広島英語教育と Basic English

馬本 勉 (県立広島大学)

【発表を終えて】

広島の Basic English を語る時、江田島の海軍兵学校で教えた Rossiter 氏への言及は欠かせないのですが、文献によって Rossiter 氏の名前が異なります。様々な文献調査により、本名は Arthur Percival Rossiter、雑誌寄稿の筆名として Philip Rossiter を用いていた(両者は同一人物)と結論付けました。発表では、Rossiter 氏の調査報告に時間をかけ過ぎたことを反省しています。そのほか広島高等師範出身者、広島出身者による Basic English 関連の著作を紹介しましたが、広島英学の中心をなす広島高師と Basic との関係は薄いものと思われる。日本における Basic English の広がり、岡倉由三郎の影響が大きく、岡倉と近い関係になかった広島高師の教授陣が Basic と深く関わることはなかったものと考えられます。この点はさらなる裏付けが必要ですので、今後も調査を続けていきたいと思っております。ありがとうございました。

【参加者の感想】

◆Basic English と広島との接点を探るご発表とお聞きしましたが、海兵の Rossiter の取り上げ方とその他の関係者の扱いとが少々アンバランスなように思いました。岡田實麿などはもう少しウエイトをおいて扱うことができたのではないのでしょうか。あるいは、広島関係者の Basic English に対する pros and cons がどのようなものであったか、特に後者の立場の人たちがいかなる点において、あるいは、何を論拠として、Basic English に抗したのかという形で整理していただくこともできたかと思えます。ただ、いずれにしてもそれを「広島」という括りで把握することが妥当かどうかについては別に検討を要するかと思われまます。 <Dragon>

◆かつて、「すべての英語は Basic English の 850 語で表現できる」との理念にとっても興味を持ちわくわくしながら関連書を読んでみたことがあります。しかし、「850 語の組み合わせ」というのがミソでした。その Basic English と広島とゆかりのある人物、岡倉をはじめ須貝清一や海軍兵学校との関わり等を拝聴していると Basic English が身近に感じられもう一度、Basic English を学んでみたいという気持ちになりました。ありがとうございました。

<Rainbow>

◆中座したので前半しかお聞きできなかったのですが、海軍兵学校の外国人英語教師の名前の特定の過程のお話は私の研究と通じる所があり興味深かったです。広島英学の expert の地位を不動のものにされた風格のあるご発表であったと思えました。

<YH>

◆Basic English の視点から日本における英語語彙教育史の重要な側面を提起された知的スリルに満ちたご発表でした。特に、広島県江田島の海軍兵学校で『英会話参考書』(1931)を刊行した A. P. Rossiter と Basic との関係に興味を惹かれました。兵学校が養成した海軍士官には、寄港地などでの情報交流や社交に欠かせない英会話力が必須でしたから、Basic のような平易な語彙で意思疎通する訓練が不可欠だったのではないのでしょうか。『英会話参考書』は平易な語彙で海軍や兵学校のトピックなどを話せる発信型に編まれていますから、Rossiter はそうした教材作成と会話練習のために Basic の可能性を見出したのではないかと推測します。同様に、英語教育界の指導者だった岡倉由三郎や市河三

喜が 1930 年代に Basic の可能性を追求したのも、西洋文明の受容型から発信型(コミュニケーション重視)への転換を意識したからではないでしょうか。その意味では、彼らは Basic という方法は異なっても、パーマーと同様の目的意識を抱いていたのではないかと思います。馬本先生による日本英語語彙教育史の大成を切に願います。 <江利川春雄>

【研究例会全体について】

◆ウェブ例会という形ながら、第 1 回研究例会が中止となった今年度にあつて、とにもかくにも例会を開催していただき、嬉しく思いました。ただ、この感想をまとめるにあたり、発表資料が手許にないことで記憶に頼るしかなく、的外れなことを書いていないかどうか気にかかっています。

なお、紀要『英学史論叢』第 23 号もこれに合わせて発行下され、ISSN を付与されていることの責務が果たされたかと喜んでおります。お世話になりました。 <Dragon>

◆移動することなく自宅にて研究発表を拝聴できるのもオンラインの便利さですが、例会とはまた違い、気楽に(顔が映るので緊張しましたが)先生方とお話させていただくことができるのはとても楽しかったです。久々に心がわくわく元気になりました。(でも、終わった後、PC の電源を切るのはさみしかったです。)やはり、オンラインではなく実際にお会いしたいものです。一日も早くコロナが収束しお会いできる日が来ることを願っています。

<Rainbow>

◆今年はコロナ禍の影響で対面での例会が叶いませんでしたが、本部の尽力により Zoom での例会が開催できたことを感謝しています。ありがとうございました。今後は現地での開催ができることをもちろん期待していますが、関東に住んでいる私としては今後も Zoom での同時開催が出来ればうれしく思います。5 月の広島での再会を楽しみにしています。 <YH>

◆皆様のお陰で無事にオンライン例会を終えることができました。ありがとうございました。コロナ禍の下でも研究例会が続けられるとの思いを強くしましたが、同時に、課題も見つかりました。通常のハンドアウトに変わる電子版資料の配付方法について、検討してまいります。 <Horse>

中国・四国支部事務局より

》》『英學史論叢』第24号原稿募集

前号のニューズレター(12月発行 No.98)でお知らせした通り、日本英学史学会中国・四国支部研究紀要『英學史論叢』第24号(2021年5月発行予定)の投稿論文を募集しています。研究論考、研究ノート、英学史随想、英学史時評、書評等、会員の皆様の積極的なご投稿をお待ちしております。

原稿提出締切は、**2021年2月20日**(消印有効)です。事務局まで郵送してください。

・ご投稿に際しては、ニューズレターNo.98に掲載の「執筆要領」および「標準書式」に従ってください。次のウェブサイトにも掲載されています。

<http://tom.edisc.jp/eigaku/yorvo.pdf>

・標準書式にそったテンプレートファイルをご希望の方は、事務局までお知らせください。

メール：eigaku@tom.edisc.jp

・研究論考・研究ノートは、正副計3部をお送りください。正本1部にのみ著者名を明記し、副本2部には著者名を伏せてください。

・英学史随想、書評等は1部お送りください。

》》年会費納入のお礼とお願い

すでに多数の会員の皆様より今年度の会費(一般3,000円、学生2,000円)をご納入頂いております。ご協力に感謝申し上げます。

これからお振込みの方は、次の口座までよろしくお願いたします(振込手数料をご負担ください)。

ゆうちょ銀行「振替払込用紙」を用いる場合
(口座番号) 01360-9-43877
(加入者名称) 日本英学史学会 中国・四国支部

他の金融機関から振込む場合
(店名) 一三九(イサキョウ)店(139)
(口座番号) 当座 0043877
(加入者名称) 日本英学史学会 中国・四国支部

》》2021年度 第1回研究例会 発表者募集

来年度の支部総会、ならびに第1回研究例会は、2021年5月29日(土)に開催の予定です。開催地は広島市、もしくはオンラインでの開催を予定しております。研究例会での発表を希望する会員は、次の4点を明記の上、事務局までお申し込みください。

- (1) 発表者の氏名・所属
- (2) 発表題目
- (3) 発表概要(100~200字程度)
- (4) 使用予定機器の有無と種類

研究発表申し込み 受付期間

2021年2月28日(日) ~ 3月29日(月)

》》『英學史論叢』第23号の発行

『英學史論叢』第23号を2020年12月12日付けで発行しました。全80ページ。目次は次の通り。

巻頭言「名前の訓み方」	竹中 龍範 ... 1
研究論考	
「日本における英語基本語選定の史的検討(1): 令文社『学習英語辞典』を手がかりに」	馬本 勉 ... 3
研究ノート	
「外来語の系譜—英語教育におけるカタカナ語の 扱い—」	松岡 博信 ... 17
英学史随想	
「『天路歷程』と佐藤喜峰と菊池武信」	安部 規子 ... 29
「暮らしの中に文学のある街」	田中 正道 ... 31
書評	
『阿波洋学史の研究 続編』(佐光昭二 著)	竹中 龍範 ... 33
『杉森此馬英国留学日記』(安部規子 編)	保坂 芳男 ... 35
『評伝 佐川春水』(森 悟 著)	安部 規子 ... 37

『英学史會報』・『英学史論叢』総目次 及び
著者別索引—『英学史會報』第1号～第20号/
『英学史論叢』第1号～第22号—

編集後記

...80

事務局・竹中 龍範 ...39
令和元年度活動報告 事務局 ...67
令和元・2年度役員 ...70
日本英学史学会広島支部 設立趣意書 ...71
会則・規程 ...73
『英学史論叢』執筆要領・標準書式 ...78

>> 訃報

河口 昭先生 2020年12月29日にお亡くなりになりました。享年77歳。浅田栄次研究の第一人者として知られ、平成5～28年度まで本支部の理事をおつとめくださいました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

英学史情報ひろば

◇『ハーンを慕った二人のアメリカ人: ボナー・フェアーズとエリザベス・ビスランド』小泉八雲記念館ラフカディオ・ハーン渡米150年記念企画展図録, 2020年

◇「新春対談 国際文化観光都市70周年」『市報 松江』190, pp.2-5. 2021年(小泉八雲記念館館長・小泉凡先生と松浦正敬松江市長, 市内在住のアイランド出身の方々との対談で, 八雲と松江の魅力が語られています。上記2点, 小泉先生よりご恵贈いただきました。)

◇河村和也『語学教育』ものがたり(20)～(21)
(連載中)

(20) 今も愛される辞書の誕生(1)『語研だより』379
(2020年12月号) p.5

(21) 今も愛される辞書の誕生(2)『語研だより』380
(2021年1月号) p.4

広島英学史の周辺(65) 大都市圏に緊急事態宣言が発令され、広島では感染拡大防止集中対策期間が続いています。コロナと向き合う新しい日常の中、感染者数の報道に一喜一憂し、PCR検査やワクチンはどうなるのだろうと、落ち着かない日々です。▼今年度、私たちの大学では学部の再編を行い、クォーター制や新科目導入のタイミングでオンライン授業が始まりました。軌道に乗せるまでの苦労は語り尽くせませんが、そんな中でも光が差し込むような、新たな可能性を感じることも多々ありました。新カリキュラムでは、様々な複合的な科目をオムニバスで展開します。そのいくつかを紹介したいと思います。▼前期前半(第1クォーター)、物理学や生物学など、科学の歴史を講じる「科学史」で1コマを担当し、日本に科学を移入する上で蘭学が大きな役割を果たしたことや、そのためのオランダ語学習の様子を紹介しました。杉田玄白が『蘭学事始』で回想する原文との格闘、ニュートン学

者・志筑忠雄(中野柳圃)による文法・訳読法などを、英語の訳読史と関連付けて話しました。全学共通の科目のため、文系理系の別なく履修者がありました。多くの学生が日本におけるヨーロッパ言語の学びはじめに興味を示してくれました。▼後期後半(第4クォーター)の「世界の言語と文化」では、「オランダ語編」4コマを担当しました。リーフデ号、八重洲の語源、出島、オランダ商館、カピタンの江戸参府、咸臨丸など、オランダゆかりの歴史と文化をはじめ、発音・単語・文法を英語と比較したり、「ニクセン」や「イェナプラン教育」など今のオランダ社会を紹介したりと、様々な内容を取り上げました。「うさこちゃん」(オランダ語のオリジナルはnijntje「ナインチェ」、英語ではMiffy)の絵本を扱った回では、そのオランダ語を英語や日本語に自在に変換し、発音まで聞かせてくれるGoogle翻訳を用いた学習法にも触れました。準備に多くの時間を割きましたが、英語以外の外国語学習の面白さは学生にも伝わったように思います。▼現代の高等教育では、「文理横断」や「学修の幅を広げる教育」がキーワードですが、英学史研究はこれらを包含した学問領域であることを改めて感じた次第です。(馬)【本号のイラストは、ウェブサイト「いらすとや」<https://www.irasutoya.com/>のフリー素材を利用しました。】



日本英学史学会中国・四国支部ニューズレター No.99

2021年2月11日発行

発行 日本英学史学会中国・四国支部(代表 竹中 龍範)

事務局 〒727-0023 広島県庄原市七塚町5562

県立広島大学 馬本研究室内

電話: 0824-74-1725(研究室直通)

e-mail: eigaku@tom.edisc.jp

ホームページ <http://tom.edisc.jp/eigaku/>

郵便振替口座 01360-9-43877 日本英学史学会中国・四国支部

Newsletter No.99 February 11, 2021